



2017年度 フェロウシップ受賞者留学体験記

2017年度 JATS フェロウシップ (心臓血管外科分野・呼吸器外科分野) / 2017年度 JATS/AATS Foundation Fellowship

2017年度 JATS フェロウシップ (心臓血管外科分野)

Deutsches Herzzentrum Munchen, Germany

白石 修一

2018年2月から2か月間JATSフェロウシップで Deutsches Herzzentrum Munchen (ドイツ心臓センター：ミュンヘン) に短期留学させていただきました。



白石 修一
所属：新潟大学医学総合病院 心臓血管外科
卒業大学：愛媛大学
略歴
1998年 愛媛大学医学部附属病院第二外科
2001年 国立循環器病センター心臓血管外科
2004年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科
2006年 国立循環器病センター心臓血管外科
2008年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科
2014年 福岡市立こども病院心臓血管外科
2015年 新潟大学医学総合病院心臓血管外科
趣味：テニス
好きな言葉：男子は生涯一事をなせば足る

ドイツ心臓センターミュンヘンは年間約2500例の心臓手術、約500例の小児心臓手術を行うProf. Langeが率いるヨーロッパでも有数の心臓専門病院です。私は特に小児心臓外科を中心に手術・回診及びカンファレンス

等に参加させていただきました。毎日10例前後の心臓手術が行われており、小児に限らずほぼ全ての種類の心臓手術を参加・見学することが出来ました。ドイツ人らしい無駄のない合理的な手術を数多く見ることが出来、帰国後の自身の手術に非常に参考になったと感じています。周術期管理も極めて合理的であり、多職種が協力して議論を交え治療を進めるシステムは新鮮でした。回診やカンファレンスは当然ドイツ語で行われますが、スタッフは皆英語が堪能なので手術・診療について質問やディスカッションすることが出来、ドイツの教育システムについても学ぶことが出来ました。また、10年以上ドイツで活躍されている小野先生がスタッフとして居られ、留学中の公

私両面に渡り非常にお世話になり、美味しいミュンヘンビール・バイエルン料理・サッカー観戦も貴重な研修の一環として経験させていただきました。さらに小野先生とFontan術後血行動態について同院のデータベースを用いた臨床研究を行い、解析結果は今年のEACTSで採択、発表されるという非常に大きな成果が得られました。

44歳というそれほど若くない(?)タイミングでの初めての海外研修でしたが、術者としての立場から手術・診療体制について幅広く吸収することが出来、自分が予想していたより遥かに大きな収穫が得られました。不在を守ってくれたスタッフの皆様、このような機会を与えていただいた日本胸部外科学会に心よりお礼申し上げます。

Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadt, Germany

平尾 慎吾

この度は第一回JATSフェロウシップに選考いただき、誠にありがとうございました。ドイツでの研修にあたり大北理事長、齋木国際委員会委員長をはじめ多くの先生方に多大なるご支援賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

私は10年間の市中病院での研修後、大学院へ進学し、国際学会で出会った研究者や術者との交流を通じて、国際的な視野の重要性を感じました。特に弁膜症での最新の手法やdevice、チーム医療、欧米での標準治療などの知見を深めたいと思い、本フェロウシップに応募いたしました。

今回研修した Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadtはフランクフルトから東へ

130km、ハート型の街壁がある15,000人の小さな町にあります。“Bad”は温泉街を示し、古くは温泉のある療養地でしたが、80年代に病院地区として再開されました。心臓外科病床147床、ICU36床、ヘリポートを備え、毎日10~15例、年間約3000例の開心術を行っています。プライベート病院であり、成績維持・患者集めのため、各領域で専門チームに分かれ、そのリーダーないし二番手が主に手術を行なっています。CABGは年間1000例、OPCAB率は20%程度で、主任教授Diegeler先生による緻密な吻合・グラフトデザインは印象的でした。僧帽弁手術はPerier先生を中心に年間300例以上、半数以上がMICSで行われ、小

切開によるvideo-assisted MICS MVPを通じて、僧帽弁形成の基礎から応用まで毎日2例の症例について議論できたことは、大きな財産になりました。また、Urbanski先生の手掛ける独自のバルサルバ形成や二尖弁大動脈弁に対する基部・弁形成は、非常に繊細かつ独創的な手術であり、その症例報告の執筆機会をいただけたことも貴重でした。さらには Sutureless valve や Mitral clip 等の deviceに触れられたこと、各国からの多くの見学者達との交流や気さく

な麻酔科医からのエコー講義などにより非常に充実した研修となりました。

本フェロウシップを通じて、今後自身に到達すべき未来像を築く良い機会となりました。より一層精進し、本邦の心臓外科医療発展に貢献できればと存じます。

平尾 慎吾
所属：日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科
卒業大学：京都大学 2002年卒業
略歴
2002年 京都大学医学部附属病院 心臓血管外科
2003年 近畿大学医学部奈良病院 心臓血管外科 助教
2009年 日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科
2014年 京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学博士課程
2017年 独国Herz- und Gefäß-Klinik Bad Neustadt, Clinical Fellow
2018年 独国Hannover Medical School, Research and Clinical Fellow
2018年 日本赤十字社和歌山医療センター 心臓血管外科 副部長
趣味：陶芸、園芸
好きな言葉：守破離



2017年度 JATS フェロウシップ (呼吸器外科分野)

St. James' Hospital, Leeds, UK

宮崎 拓郎

私も気づくと中年となり、「海外留学」という新たな環境と刺激を受けることのできる最後のチャンスではないかと考え、今回のフェロウシップに応募させていただきました。



宮崎 拓郎
所属：長崎大学大学院 腫瘍外科
略歴
2000年 長崎大学第一外科入局
その後関連施設で一般外科研修
2007年 Clinical fellow, Department of Cardiothoracic Surgery, St. Vincent's Hospital, Sydney, Australia.
2008年 長崎大学大学院 腫瘍外科
2011年 長崎大学大学院修了 (医学博士)
2018年 長崎大学大学院 腫瘍外科
趣味：旅行、博物館巡り、読書、ランニング (時々)
好きな言葉：Chance favors the prepared mind.

た。私の研修先はDepartment of Thoracic Surgery, St. James' Hospital, Leeds, UKで、ESTSのgeneral secretaryであるAlessandro Brunelli先生、2018年ESTS会長であるKonstantinos Papagianopoulos先生を中心にお世話になりました。2018/3/20に日本を出発、6/9に帰国、最大3か月の制限のほぼ満期を過ぎました。快く送り出して貰った当科永安教授や同僚に改めて感謝した

と思います。制度上、手洗いができませんので、日々の手術・外来診療・各種カンファレンスの見学を行いました。肺癌手術の90%以上の症例が1アクセス+1 or 2portsでのVATSであり、良性腫瘍・気胸・縦隔腫瘍・膿胸等の症例では時にSingle portでも手術が行われていました。本邦の多くを占めるGGA主体の肺癌は殆どなくsolidな腫瘍が主体であること、リンパ節郭清への考え方、全摘の頻度、外科医のトレーニングシステムやワークライフバランスなど、本邦とは異なる彼らの日常臨床がよく理解できました。医療コストには何かと厳しいイギリスですがDa Vinciも行われていました。本邦が世界をリードしている区域切除への注目はこちらでも高く、良いdiscussionができた

と思います。またBrunelli先生から幾つかの臨床研究課題を頂き、今後の国際学会等で発表予定です。

今回の最も収穫は、このような世界をリードするbig surgeonsとの繋がりを築くことができたこと、もちろん英語の苦勞等ありましたが、当初の目的であった再度自身を奮い立たせるのに十分な刺激と自信を得ることができたことだと思います。

この経験を日々の診療に生かし、若手呼吸器外科医をencourageしながら、私自身も本邦の胸部外科学の発展に微力を尽くしていきたいと考えています。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を頂きました日本胸部外科学会国際委員会の先生方、スポンサー企業の方々に深謝致します。本当にありがとうございました。

ホームカミングセッション (第71回学術集会・国際委員会)

定期学術集会としては初めての試みとしての企画です。このセッションは、3部構成で行う予定です。第1部では、昨年度から本学会が開始したfellowshipの受賞者に実体験を報告していただき、生の声でそれらを会員の皆様と共有することを図ります。第2部では、現在海外施設で研究、または、臨床修練を積んでいる留学生

を呼び寄せ、留学実現までのプロセス、留学先での苦勞話や学んでいる事柄について率直に報告していただきます。そして、第3部として、登壇者間での質疑を行いながら、中堅・若手の胸部外科医の海外施設研修の意義についての話し合いを深めます。皆さん奮ってご参加ください。

2018
10/5 学術集会2日目
(金) 18:45~20:15 (予定)

グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール3階
A+B会場 (慶雲+白雲)

University Hospital Zurich, Switzerland

古川 公之

この度は名誉あるJATSフェローシップを受賞させて頂き、身に余る光栄に存じます。

選考戴きました理事会の先生方に心より感謝申し上げます。



古川 公之
所属：山口宇部医療センター
卒業大学：岡山大学
略歴
2003年 神戸西市民病院
2008年 香川県立中央病院
2010年 岡山大学
2013年 ビッツバーグ大学
2014年 山口宇部医療センター
趣味：Jリーグ
好きな言葉：感謝

チューリヒ大学に2018年1月-3月の間、短期研修を行いました。Walter Weder教授の厚意により手術見学中心の研修としました。毎日手術を見学し、一日の終わりにノートにまとめるということを繰り返しました。手術の幅が広いというのが第一印象で

す。私自身は地方の一般病院に勤務しているため比較することが難しいですが、肺移植やロボット手術は大学病院ならではの感がありました。複雑症例、気管支形成や肺動脈形成を要する手術も積極的に行われており、中皮腫手術や臨床試験も見学することができました。チューリヒはドイツ語圏でありカンファレンスや回診は分からないことも多く、質問することにしていました。胸腔鏡手術は道具や手順が若干違いますが日本と同様に行われており、今後はロボット手術に移行していく可能性が高いように感じました。個人的にはロボット手術を見たことがなかったため、3Dの視野で良く見える

ということが分かりました。

スイスは物価が非常に高いところが難点でした。家族で行ったため苦労した点も多かったですが、子供達にとっては良い思い出になったかもしれません。冬で寒いというのは残念でしたが、暖かい季節ならもっと良いと思われそうです。

最後になりましたが人手不足の中、このような貴重な機会を許可していただいた山口宇部医療センター、岡山大学の同門の先生方に厚く感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

Hôpitaux Universitaires de Strasbourg, Strasbourg, France

加藤 博久

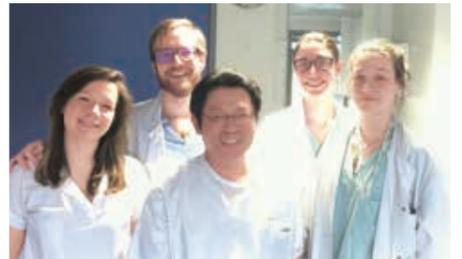
この度、フランスのストラスブール大学に2018年2月から2ヶ月間、短期留学させていただきました。私が当施設を選んだのは、「IRCAD」という内視鏡手術教育施設がストラスブール市にあったためです。しかし、IRCADは大学とは異なる管轄で実際には利用できなかったのが残念でした。一方、ストラスブール大学は欧州の胸腔鏡手術拠点施設でProf. Massard Gilbert, Prof. Pierre-Emmanuel FalcozはESTSの重鎮の先生方であり、非常に恵まれた施設で経験をさせていただいたと思っております。

研修では主に手術を学び、毎日手術があり手術総数は125件でした。特に肺移植、ロボット手術はそれぞれ4例、7例見学でき、これまで私には経験がなかった分、勉

強になりました。胸腔鏡手術は3ポートの見上げ式でスタッフとレジデントの2人で手術を行うsolo surgeryでした。リンパ節郭清の精度は日本の方が優れていると感じましたが、手術時間は胸腔鏡下肺葉切除を1時間30分以内に完遂させます。そのコツを勉強してきました。また、教授2人の他、3人のスタッフDr.がおり、それぞれの技術を見学できたことは貴重でした。フランスも皆保険制度です。ロボット手術は費用がかかるため通常の開胸手術では、ステープラーやエネルギーデバイスを用いない“low cost lobectomy”を意識されており学べき点が多々ありました。

初めの2週間は生活に慣れることで精一杯でしたが、その後は少しずつ慣れ、週末

にはパリやモンサンミッシェル、隣国ドイツへと知人との交流や観光ができ、有意義に過ごせました。短期間ではありましたが、本留学は現在の私には丁度良い時期、期間であったと思います。最後に、本学会より御支援いただきまして、会員の皆様、大北理事長、齋木教授、そして奥村明之進先生に深く感謝申し上げます。



加藤 博久
所属：独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院
卒業大学：山形大学医学部
略歴
1999年 山形大学医学部 第2外科
2005年 山形大学医学部大学院卒業
2005年 山形県立中央病院 呼吸器外科
2007年 仙台厚生病院 呼吸器外科
2009年 日本海総合病院 呼吸器外科
2010年 山形大学医学部 第2外科
2015年 4月 公立置賜総合病院 呼吸器外科

2015年10月 山形大学医学部第2外科
2018年6月～ 独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院

趣味：サッカー
好きな言葉：努力



2017年度 JATS/AATS Foundation Fellowship

Emory University Midtown & St. Joseph Hospital, USA

高橋 洋介

私は2001年に大阪市立大学を卒業し現在までひたすら心臓外科に没頭し邁進してまいりました。気付けば40歳を超えており、何かチャレンジできていなかった事、悔いが残ることがあるかと思いつくと“海外留学”でした。ある日、上司より日本胸部

外科学会が提供する海外でのfellowshipが始まったことを聞かされました。すぐにチャレンジしたいという強い欲求に駆られ応募しました。幸い、JATS/AATS Foundation Fellowshipに受け入れていただくこととなりました。私は、2017年にRobotic surgery

の console surgeon の資格を得、今後 robotic surgeon として頑張っていきたい矢先の非常に良い timing での fellowship があったことから Robotic surgery を勉強することを第一希望として要望を伝えました。2018年1月5日より3月30日までアトランタにある Emory University Midtown hospital および Emory St. Joseph Hospital で研修が始まりました。単身で渡米し、僕にとっては全てが初めてでありました。現地の英語は南部のアクセントが強く最後まで理解するのに苦労しました。Michael Halkos 先生および Douglas Murphy 先生が僕を指導してくださいました。彼らは非常に良い外科医であるとともに良き指導者でもありました。Halkos 先生は Robotic MIDCAB を行い、Murphy 先生は Robotic mitral valve repair をほぼ毎日行なっていました。米国は州の規則が非常に厳しく、免許をもたない私は基本的には observer としての研修でした。しかしながら、毎日繰

り返し見学することで言葉の壁を超えて自分の中に吸収されていく知識、経験を実感できました。オーストラリアからの robotic fellow と仲良くなり豚の心臓を使用して da Vinci Si を用いて手技のトレーニングを繰り返して行いました。さらに、研修中は上司の柴田利彦教授、および村上貴志准教授がアトランタに来てくださりました。Emory 大学と非常に良い関係が構築できたのではないかと思います。4月に日本に帰国後は、非常に良いタイミングで胸腔鏡下僧帽弁形成術が保険認可されました。大阪市大で Robotic team を立ち上げ、この6月から私が console surgeon として robotic mitral valve repair を開始しました。全てが良いタイミングで物事が進んでいきました。

最後に、このような機会を与えてくださった柴田教授、および僕の日本での仕事を cover してくれた医局員に心から感謝したいと思います。



高橋 洋介
所属：大阪市立大学医学部心臓血管外科
略歴
2001年5月1日～2003年3月31日 大阪市立大学医学部附属病院臨床研修医
2003年4月1日～2007年3月31日 大阪市立大学循環器外科学大学院
2007年4月1日～2011年3月31日 福井循環器病院 心臓血管外科レジデント
2011年4月1日～2013年6月31日 大阪市立総合医療センター シニアレジデント
2013年7月1日～2016年3月31日 大阪市立総合医療センタースタッフ 医長
2016年4月1日～2017年3月31日 大阪市立大学医学部心臓血管外科 病院講師
2017年4月1日～現在に至る 大阪市立大学医学部心臓血管外科 講師
趣味：硬式テニス、ジョギング
好きな言葉：Today is a new day

Cleveland Clinic, USA

吉岡 一朗

今回JATS/AATS Foundation Fellowshipによりクリーブランドクリニックに留学する機会を頂きました。医師になって約20年経ち若い頃はなんとなく留学に憧れていましたが、これまで機会はなく自分では時期を逸したものと考えていました。今回の募集の話を聞きラストチャンスだと思い応募しました。留学先はAATSからクリーブランドクリニックを推薦され、担当して下さるのが Marc Gillinov 先生で、ロボット手術等で著名な先生でもあり心躍りました。今までこれといった specialty も持たずに来ましたが、僧帽弁形成術は以前から興味のある手術でしたので今

後は弁形成を志す良い機会だと考えました。

留学時期は冬を避けて3月末から5月末までとしていただきました。クリーブランドクリニックの心臓血管外科は、全米のランキングでは20年ほど連続1位という評価を受けていて質も量も他を圧倒しているようです。年間4000例超の開心術を行っており、15人ほどのスタッフ外科医が担当していました。何人かの外科医は専門分野を持っており Gillinov 先生以外にも Svensson 先生などの手術も見学することができ世界的な top surgeon の手術を短期間にたくさん見学できたことは本当にかけ

がえのない経験となりました。Gillinov 先生によるロボットの僧帽弁形成術も週2回程度は行われていて、期間中に25例ほど見学できました。周りのスタッフも皆さん慣れていてスムーズに手術は進みますが、今後日本で導入するにあたっては課題も多いのであろうと感じました。ロボット手術に限らず連日多くの僧帽弁形成術を見学でき、術前の麻酔科医による経食道エコーも秀逸で弁形成の方法も分かりやすい方法を取られていたもので、わかった気になっているだけかもしれませんが、是非自分で実践して

みたいと感じられる手術でした。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった胸部外科学会の諸先輩の方々および会員の皆様、そして JATS/AATS Foundation Fellowship をサポートしてくださいました日本メドトロニック社の関係各位に心よりお礼申し上げます。



吉岡 一朗
所属：東北大学大学院医学系研究科心臓血管外科
卒業大学：東北大学 1998年卒業
略歴
1998年 公立気仙沼総合病院 初期研修医
2001年 仙台厚生病院心臓血管外科
2002年 東北大学心臓血管外科入局
趣味：料理、ロードバイク
好きな言葉：面白きこともなき世を面白く
住みなすものは心なりけり